

謹賀新年

## 2022年始まり！

2021年の流行語大賞にもなった大谷翔平さん素晴らしい活躍でした。また東京オリンピックやノーベル物理学賞の眞鍋淑郎さんなど、コロナ禍の中でも、明るいニュースがたくさんありました。2022年も良き年となりますように。みんなで“イイね”し合っていきましょう。今年も読書に勉強にお話に来てくださいね～、EMC 一同お待ちしております。“おみくじ”もひきに来てね♪。



令和4年1月号 Vol.50  
情報メディア教育センター

## 2022年 イマイチを、いまいちど。



あけましておめでとうございます。新しい年が始まりました。

新型コロナのおかげで、イマイチな日常が続いています。昨年のオリ・パラも、せっかくの国内開催が無観客になって、会場の雰囲気もイマイチになってしまいました。しかし、聞こえてくる選手の声や競技の音は臨場感を高め、アスリートの圧倒的なパフォーマンスと相まって、開催前のゴタゴタすらも吹っ飛ばすほど、夢中になれた1ヶ月になりました。

その中の一つ、体操の総合種目で無敵だった内村航平選手が、鉄棒だけに絞って臨んだ大会で、まさかの予選落ち、無常の道理はキングにも例外ではありません。盛者必衰の儚さは嫌いじゃないですが、やはり寂しさも感じてしまいます。

怪我に苦しみ漸くたどり着いたオリンピックで演技中に落下で、まさかの途中失格、内村選手ここで終わるのか？

しかし、ここからがキングは違いました、一度は気持ちが途切れながらも、3カ月後に開催された世界大会で失敗した演技に再挑戦。技の出来栄はイマイチだったそうですが、内村選手自身が言う「これ以上ない」「全てを伝えられた」という着地…例の「修造」が熱く語るTV番組の効果もあって、シビれました。正直、技の精度は見てわかりませんが、頂点を極めたキングが不十分な姿を晒してでも演技に臨む覚悟に、求道者としての生き様を見せてもらえました。

内村選手の今後は未定だそうです。潔く引退する、最後まで現役にこだわり続ける、それぞれに美学があるとは思いますが、いずれにしても超一流の人には「見苦しさ」が残りません。

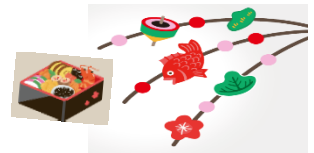
話はぐるり変わって、昨年11月の衆議院選挙、18歳以上のみなさんは投票に行きましたか？わざわざ行くのは面倒ですね。しかし、この政治家に限らず権力者という方々、得たものに執着し引き際を知らない人も多いようです。そういったイマイチな政治家に「引導が渡される」のは、選挙ならではの醍醐味なのです。何よりそういったムーブメントはみんなの士気を上げてくれます。18歳になったら、是非投票に行く癖をつけておきましょう、時代や国によっては考えられないほど大事な権利が日本にはあるのです。

身の回りのイマイチも、今一度捉え方を変えると、ちょっとマシなことも見えてくるかもよ、というお話でした。

ちなみに、今回で図書だよりも第50号！みなさまに感謝です。今年もよろしく願います。



# 新着図書ピックアップ



## 『星を掬う』

町田そのこ【著】

2021年の本屋大賞『52 ヘルツのクジラたち』町田そのこさんの最新作です。親子関係、介護、DVなど切実で重苦しい状況もありながら、共同生活をしていくお話です。今の社会で現実問題としてありうることなので、考えさせられます。しかし登場人物が、不器用だったり上手くいかなかったり悩みながら変化しようとしていく様子に引き込まれ、一気に読みしてしまいました。人々の背景や考えは複雑で、理由もある。一部の印象が全てではないなと自戒の念も込めて思いました。(大原)



## 『ヘルシンキ生活の練習』

朴 沙羅【著】

### ヘルシンキ生活の練習

フィンランドの都市ヘルシンキに幼児二人を連れて移住した社会学者の現地レポート。ムーミンにマリメッコ、おしゃれなイメージの国ですが、真の北欧ファッションは違うそう。オフィスでの服装について質問したところ、「外を歩くときは体のどこかを反射させるとよい」と。反射！？そう言われて周囲を見ると、たしかにかなり多くの人がめっちゃダサい、工事の人が着るような「黄色いベスト」を着ているんだってさ。しかも現地で移住のサポートをしてくれる担当者にまで「あなたはもう少し、反射させないと危険ですよ」と言われる始末。もちろん異文化理解のための示唆に富んだまじめな話も盛りだくさん。いつもは読み終わった本はすぐに手放すのですが、これは手元に残します。(津田)

朴沙羅

フィンランドの都市ヘルシンキに幼児二人を連れて移住した社会学者の現地レポート。ムーミンにマリメッコ、おしゃれなイメージの国ですが、真の北欧ファッションは違うそう。オフィスでの服装について質問したところ、「外を歩くときは体のどこかを反射させるとよい」と。反射！？そう言われて周囲を見ると、たしかにかなり多くの人がめっちゃダサい、工事の人が着るような「黄色いベスト」を着ているんだってさ。しかも現地で移住のサポートをしてくれる担当者にまで「あなたはもう少し、反射させないと危険ですよ」と言われる始末。もちろん異文化理解のための示唆に富んだまじめな話も盛りだくさん。いつもは読み終わった本はすぐに手放すのですが、これは手元に残します。(津田)

## 『読書嫌いのための図書室案内』

青谷 真末【著】

主人公はどこにでもいそうな読書嫌いの図書委員荒坂浩二。図書新聞の再刊を任せられ、その原稿(読書感想文)を集める際に遭遇する不可解な学校の謎を解いてゆくビブリオかつコージミステリーです。相棒は大の本好きで、普段は目立たないが本の話をしているときだけは生き生きとする藤生蛭。『少年の日の思い出』、『赤い繭』、『舞姫』といった教科書にもでてきそうな小説とそれらの本に関する読書感想文が謎解きのキーになっています。荒坂君と藤生さんの掛け合いが楽しく、読後感もさわやかです。スッキリしたい人！これ読んで。(大塚)



新着ピックアップは毎月、司書が「これはぜひ読んで！」と思う本を選びすぐってお届けします。

上記以外にも新着図書がたくさん届いています。カウンター前の新着コーナーをご覧ください。



主人公の推すアイドルが女性を殴り、炎上する。  
それがそのままタイトルとなり『推し、燃ゆ』164回芥川龍之介賞&2021年本屋大賞ノミネート作品であります(^\_^)。

「推し」と「好き」は違うんだ！推しは推しで、好きとは違うから推しとは付き合えない！どの生徒も口を揃えてそう答えます。理解できない…。自分に見合わない程の高嶺の花的な存在、お付き合いできるものならお付き合いしたい！これが私の考える「推し」。

しかし、現代っ子の「推し」はどうやら違うみたい…。共感できないあたり私も年を取ったなと感じる今日この頃…。若いと思っていた私も気づけば、プロ野球の助っ人外国人と同じ年齢、スポーツ界ではベテランと言われる年となっている。こうも話がかみ合わないことを体感すると年は取りたくないものだ(ノ口)・°・。。

身体的な老いは仕方ありませんが、現代の流行やトレンドから取り残されないように気を付けなければなりませんね。

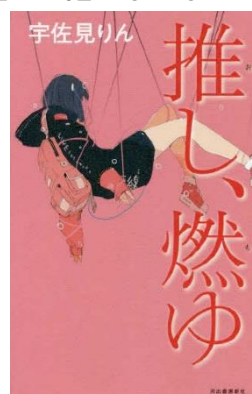
脱線失礼！話を本書に戻します。

推しが不祥事を起こしても、推しを推す気持ちは冷めず、推しに全てを捧げると決めた主人公。推しの目覚ましで起床、推しの星座占いを確認し、推しの曲を聞いて登校、推しのグッズやコンサートチケット代を稼ぐためにアルバイト、推し中心にまわる私生活。

「推す」ことを経験したことがない私にとって、何一つ共感することができない主人公の生活スタイル(°口°)。でも、現実世界でも推しを生きがいに本書のような生き方している人も結構多いと思うので否定はするつもりはありませんが…。でもいずれ推しを推せなくなる日がくるわけですから、時間とお金ももったいないよ！と思う私って、つまらない人間なんではしょうか？

ついに、主人公にも推しを推せなくなる日が来てしまいます。推しの最後のライブ後、主人公は…。

これまでハッピーエンド系の物語を読んできたため、新ジャンル開拓的な新鮮な物語構成でしたが、何とも言えないモヤモヤ感が残る結末に…。本書を通して「推し」と「好き」の違いちょっと分かったような…



推し、燃ゆ 宇佐見 りん 著

1月	
1 土	休館
2 日	休館
3 月	休館
4 火	休館
5 水	休館
6 木	8:10-16:50
7 金	8:10-16:50
8 土	休館
9 日	休館
10 月	休館
11 火	8:10-18:50
12 水	8:10-18:50
13 木	8:10-18:50
14 金	8:10-18:50
15 土	休館
16 日	休館
17 月	8:10-18:50
18 火	8:10-18:50
19 水	8:10-18:50
20 木	8:10-18:50
21 金	8:10-18:50
22 土	休館
23 日	休館
24 月	8:10-18:50
25 火	8:10-18:50
26 水	8:10-18:50
27 木	8:10-18:50
28 金	休館/館内整理
29 土	休館
30 日	休館
31 月	8:10-18:50



第44回 坂崎真理子先生おすすめ

『とんび』重松清【著】


照れ屋で不器用な父親ヤスさんと、息子アキラの話。時には衝突しながらも互いに思いあう親子、それを見守り支える仲間たち、人とのつながりっていいなあと思える作品。

9年前にドラマ化されていたけれど、今度は映画化されるらしいので、よかったらこの機会に読んでみてください。

※お薦め本はリレー連載です。次のバトンはどなたに渡るかな？

だれも  
借りてくれなかった本

今年もあの企画がやってきました。2021年の1年間で「だれも借りてくれなかった本」を特集します。EMCの本は、毎月おもに司書が選んでいます。けっこうがんばってんだよう。それなのに一度も誰にも見向きもされなかった悲しい本があるのです。亡霊となって夜ごとEMCをさまよってるんだって。ああ、おそろしや。どうか成仏させてあげてください。まずは、司書のつぶやきに耳をすましてみましょうか。

 司書大塚のつぶやき「いつか見つけて！」

カウンターには連日たくさんの生徒が来て、いろんな話をしてくれます。そのほとんどは本に関する事ではないですが、アンテナを張っていると選書のヒントになることがずいぶんあるのです。それを手掛かりに毎月本を選んでいますが…。

ですので、こんな子にはこの本、あの子はこんな本が好きかなと思いながら選ぶこともあります。新着コーナーから一般書架へ直行してしまう本を見送るときはちょっと「はあ〜」ってなります。アンテナの張り方違ったか、感度落ちたか…。

でもこんな子やあんな子がいつか（たとえそれが何年か後であっても）、書架から見つけだして読んでくれる！と思っています。

 司書津田のつぶやき「・・・おっかしいなあ。」

毎月うんうん唸りながら、EMCで出会った生徒さんの顔や交わした言葉を思い出しながら、書店や図書館、本のある場所に足繫く通って選んでいる本たち。今回改めていくつか読んでみたんですけどね、ああ、やっぱり面白い。新刊本だってそこそこ入るの早いし、タダだし、いいと思うんだけどなあ。

でも誰にも借りてもらえない本があるのは事実。ボス曰く「(選ぶ本が)アダルトだ」と。はいはい、申し訳ございません。オバサン文庫にならないよう気を付けます。それにくわえて心優しい生徒の皆さん、お力添えください。EMCにあったらいいなと思う本やDVDがあればぜひ司書に教えてください。

 司書大原のつぶやき「今年も猛省」

新しく入れたが借りて頂けなかった本が2021年も何冊かございました(涙)。選んだ本に興味持って頂けなかった問題、アピール不足問題、読書の良さを伝えられなかった問題・・・に猛省しております(×)。”140字の世界”も”#ハッシュタグ”も”ストーリー”の世界も良きだけど、本の世界も同じく良きです！！。少しでも興味持ってもらえるように今年も精進します。今年もご利用を何卒よろしくお願い致します。

生徒さんへの利用促進かつ、司書の自省を促すこの企画。

なんと、特集コーナーに並んだすべての本に司書の一冊入魂「手書きPOP」付きです。ぜひ手に取ってみてくださいね。

図書館からのお知らせ

- 受験シーズン到来。開館時間を延長します。  
1月11日(火)から開館時間を18:50まで延長します。がんばれ受験生！
- クリスマス企画「カリ・ヨン・コタ・モラ」締切迫る  
クリスマス企画に参加してくれたみなさん、応募の締め切りは、1月11日(火)です。  
当選者の発表は1月12日(水)。ホームページか館内の掲示をご覧ください。

編集後記 去年は仕事のおかげでたくさん本を読みました。午前中の静かな時間、一人で文字を目で追う時間はなによりの贅沢。図書だよりの締め切りが近づくとそんなこと言ってもらえんわい、て思うけどね。(津田)



図書だよりは  
記念すべき  
50号です！

